

平成30年度小松市立松陽中学校 学校評価(中間報告)

めざす児童生徒像

「温かな人間関係の中で、生き生きと自主的に活動する生徒」
 ①「自主」・・・自分の力で判断し、自ら進んで行動できる人
 ②「自立」・・・自分の行動や言動に、責任を持つことができる人
 ③「奉仕」・・・思いやりの心を持ち、人と地域に貢献できる人

※生徒結果－教員結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校重点項目)	自己有用感向上	生徒指導 ・全項目の達成度(%)平均を90%以上にする ・②の達成度を100%にする	① 自分にはよいところがある	91	75	82	-16	③以外は共通して教員が思っているほど生徒は思っていないというギャップが見られる。 ③について教員が思っている以上に、生徒は夢や目標を持っていることがわかる。 ①については昨年度末調査の数値と一致しているので、ここから昨年度同様に、伸ばしていけると良い。	①②④については、引き続き全員が「好き」と思える温かい学校づくりを目指していく。具体的には ・生徒と教師、及び生徒同士の信頼関係構築を目指し、きめ細かい生徒観察による声かけや授業や行事を通して、互いの良さを認め合えるような活動を充実させていく。 ③については、総合や道徳の時間を充実させ、他学年の進路学習に触れる機会を設けたり、地域人材を活用し、より身近なキャリア教育が行えるようにしたりしていく。
			② 先生は、あなたのよいところを認めてくれる	91	80	85	-11		
			③ 将来の夢や目標を持っている	56	75	61	19		
			④ 学校は好きだ	97	87	81	-10		
			集計						
石川県共通重点項目	働き方改善 業務の改善 管理運営	全項目の達成度(%)平均を90%以上にする。	① 校務分掌は適正に分担されている	91				①②③に関しては、ある程度達成できている数値となっている。 ④については、大幅に目標を下回っている。	・なぜ働き方改革なのかというところからの意識改革に取り組み、各自できることを面談シートに掲げる。 ・仕事内容の見直しを図るための意見集約 ・タイムマネジメントするためのスキル周知 ・目標退校時間の見える化
			② 平日8割以上は、21時までに退庁している	88					
			③ 日曜日は休養日としている	93					
			④ 月1回は定時退庁を実現している	72					
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
小松市共通重点項目	学校研究	①③の達成度平均を85%以上にする	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている	97				すべてにおいて目標を達成している。 年度当初の校内研修を始め、定例化された教科部会が、毎回有意義な情報交換の場となっている。 また、外部講師を招いて「道徳の教科化」に向けた校内研修を実施したことも、とても効果的な研修の場となった。	引き続き、全体での校内研修や教科部会により、授業力向上に向けた全体研修は実施していくが、教師力向上に向けた若手研修を、今必然的に組み込まれている学年会や教科部会による校内OJTにプラスして、組み込んでいく仕掛けを考えていく。	
			② 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している	94						
			③ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している	85						
			集計							
	指導力の向上	授業	①②⑤の達成度平均が85%	① 児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる	94	84		-10	①②については目標を達成しているが、⑤に関しては大きく下回っている。 ⑥については教師が思っている以上に生徒は良かったと実感していることがわかる。 ⑤については時間は確保しているが、「振り返りの内容に課題が見られる」と感じている教員が多い。 全体的に効果的な学び合いをさせるためには、その土台となる学級づくりが大切だということと、十分な下準備が必要であると感じている教員が多かった。	②については、仲間作り活動を定期的に行うために必要なスキルを学ぶ機会をつくる。 ③④の向上に向けて、話し合い活動のフォーマットのようなものを準備し、どの教科でも共通な取組にしていけるとよい。話し合える力をつけられ、話し合う内容が変わるだけでなく、その力をつけさせることに焦点を絞れると良い。そのための研修も企画していく。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	91	84		-7		
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	66	67		1		
				④ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	72	67		-5		
				⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	78	81		3		
				⑥ 児童生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる	53	91		38		
⑦ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行っている				72						
学力の定着	学力調査・教科	①②の達成度が85% ③④の達成度が80%	① 学力調査の自校採点の結果を是全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている	100				①②については目標を大きく上回っている。定例化された教科部会による成果と考えられる。 ③については目標及び前年度の結果も上回っている。主任層による周知の結果と考えられる。 ④については目標をやや下回っている。小中連携推進部会による取組はなされているが、全体への広がりには課題があると考えられる。	①②③については、引き続きPDCAサイクルを効果的に実施していきたい。 ④については、授業づくり部会による分析・検証の結果を、全体に周知し、改善策を考えていく流れにしていく必要がある。	
			② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている	94						
			③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている	88						
			④ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	76						
			集計							
家庭学習	全項目の達成度平均を85%以上にする	① 自分で計画を立てて勉強している。(3年以上)	72	66	55	-6	①については目標を大きく下回っており、提出するためだけの形式的な学習で、自分のためになる学習ができていないという意見が多かった。 ②については、毎日の地道な取組により、特に英語に関しては、家庭学習の定着が図られている。	①については、 ・課題の量を減らし、内容の充実を図る。 ・計画表をもっと効果的なものにする。 ・「スモールステップ」で定着させる。 ・インプット&アウトプットを繰り返させる。 などの取組を考えていく。		
		② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	85	86	61	1				
		集計								